

認定 NPO 法人北海道 NPO ファンド 2022 年度事業報告書

0. 2022 年度の助成事業概況

22 年度は、休眠預金助成を中心に 3700 万円の助成支出となりました。

年度(10~9月)	経常収入	支払助成金
2015	178,549	1,040,000
2016	517,412	3,197,501
2017	2,649,757	3,795,258
2018	34,100,288	12,021,711
2019	9,890,089	14,499,000
2020	84,121,972	72,261,270
2021	60,695,779	35,497,876

2022	50,972,442	37,055,250
------	------------	------------

1.助成実績

休眠預金等活用法による助成については、別途項目立てます。

1)越智基金・市民活動支援基金

一般公募により、道内の NPO 法人・市民活動団体への助成を実施しました。今年度は、ガソリン代の高騰などを背景に移動支援を行っている団体への支援を謳いました。

応募総数 31 団体 助成決定団体 10 団体 助成総額:50 万円

2)越智基金・市民活動支援基金ウィズ/ポストコロナ特別枠助成およびウクライナ等国際紛争避難者支援活動特別枠助成

2022 年 3 月に解散した NPO 法人ほっとステーションひだまり様の寄付により造成されました。

<特別枠概要>

寄付額 1844642 円 (3月末に受領済み)

事務手数料 寄付額の 10% 184464 円

助成額 1660178 円

「ウクライナ等国際紛争避難者支援活動特別枠」 83万円178円

「ウィズ/ポストコロナの市民活動特別枠」83万円

<初回助成実績>

ウィズ/ポストコロナ特別枠助成 申請 1、採択 1 助成総額 10 万円

ウクライナ等国際紛争避難者支援活動特別枠助成 申請 2 採択 2 助成総額 50 万円

2) 北海道いぶり東部地震及び台風 21 号北海道内被災地支援基金(いぶり基金)

2021 年度第 8 回の助成を終え、基金残額が事実上ゼロとなりました。寄付募集を中止し、以後は「北海道災害復興支援基金」がその役割を引き継ぐこととなります。

いぶり基金は、北海道いぶり東部地震及び台風 21 号北海道内被災地における支援活動を支えるための基金です。

(特別助成枠)

基金残額 201 万円。本年度は 1 件 45 万円を助成しました。基金残額は、156 万円となりました。北海道 NPO サポートセンターと意見交換をしながら中長期的観点による助成を目指します。

3)こども基金

こども基金は常設型でこども分野で活動する団体への助成を目的としています。2022 年 11 月、元北海道日本ハムファイターズ所属・現福岡ソフトバンクホークス所属で、このたび通算 1000 本安打を達成した近藤健介選手の「マイルストーンオークション」が行われ、近藤選手の北海道の子どもたちに広く役立てて欲しいという願いにより、収益金を「こども基金」へご寄付をいただくこととなりました。北海道内でこども分野で活動している 3 団体におよそ 64 万円を助成しました。基金残額はこの助成によってゼロとなりました。

4)まちのプロジェクト基金

組織診断+クラウドファンディングを特徴にした、組織力向上を意図した新しい助成プログラムです。助成を受けて実施した 2 期の実績を検討して 3 期目の実施を目指していますが 2022 年度は実施へ向けた検討ができませんでした。

5)コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

北海道生協連さまより、胆振東部地震被災地における NPO・ボランティア団体による支援活動に対する助成を目的に造成された冠基金です。

基金残額は、選定委員会における「成果報告会や被災地活動の重要性を伝えてもらうような活動に当ててもらいたい」という意見に沿って、22 年 10 月における北の国災害サポートチームさまとの共催フォーラムに活用しました。

すべての助成を終え、3 年間の活動報告書の制作を予定しています。

6)厚真町子ども応援基金

匿名希望者様により造成された、胆振東部地震被災地である厚真町の子どもを支

援する活動に助成する基金です。助成団体を指定する助成事業であり公募はしませんでした。実施団体からは年度ごとに事業計画を出していただき、助成金を拠出します。

22年度は、厚真町滞在プログラムを実施しました。

助成額 80 万円、助成予定総額 500 万円

7)北海道災害復興支援基金

胆振東部地震の被災地支援助成の教訓を受けて造成された常設の基金です。22年度は助成を行いませんでした。

8)小林董信基金

当ファンドの連携団体である北海道 NPO サポートセンター前事務局長であり、NPO 法成立時から北海道の NPO の発展に大きな役割を果たされた故小林董信さんを偲び、その功績を後世に伝えるための基金を造成しました。22年3月に北海道 NPO サポートセンターによって開催された「偲ぶ会」をきっかけとして、ゆかりの深い有志の方々を中心に、基金の造成に至りました。

初回助成は、個人の能力向上、団体プロジェクトそれぞれ4人4プロジェクトが採択され、合計250万円を助成しました。

この基金は、北海道 NPO サポートセンターと当ファンドがプロジェクトチームをつくり運営されます。

小林氏が実践されていた人を育て応援することを目指し、総額1000万円を3年間にわたり助成します。

9)団体指定寄付

2022年度は、特定非営利活動法人SDGsほっと北海道を指定した寄付助成を行ないました。

2. 個人や団体等からの基金の原資を増やす下記の活動を行いました。

各基金の寄付額は以下の通りです。

基金名	金額 [円]	備考
小林董信基金	11000	21 年度に北海道NPOサポートセンターにより造成されました。人を育て応援することを目的とします。
越智基金	0	寄付受付を終了し、市民活動支援基金に移行します。
北のNPO基金 【市民活動支援基金】	12000	越智基金の後継と位置付けられる、市民活動向け・用途限定なし・少額助成を意図した基金です。
市民活動支援基金 特別枠	0	NPO 法人ほっとステーションひだまり様の寄付により造成されました。ポストコロナの市民活動と、国際紛争からの避難者支援活動に対して助成します。
こども基金	712800	常設型基金です。今年は北海道日本ハムファイターズ様チャリティオークションよりご寄付をいただき 3 団体に助成しました。
コープ 2018 年 北海道地震ボランティア 応援基金	0	北海道生協連様により、胆振東部地震被災地の活動を支援するために造成された冠基金です。総額 900 万円、寄付募集はしません。
いぶり基金	0	胆振東部地震被災地における NPO 等支援活動のために造成されました。寄付募集は 2020 年度までで終了しました。
いぶり基金特別枠	0	バイナンス様の寄付により胆振東部地震被災地の中長期的支援のために造成されました。総額 500 万円、寄付募集はしません。
厚真町子ども応援 基金	0	匿名様より、胆振東部地震被災地で活動する団体を指定した冠基金です。総額 500 万円、寄付募集はしません。
まちのプロジェクト 基金	0 円	2021 年以降第 2 期寄付集めの予定
北海道災害復興支 援基金	83134 円	いぶり基金の後継と位置付けられる、平時から災害に備え、支援団体の活動を支える基金。Yahoo!ネット募金に登録。
団体指定寄付	22222 円	1 団体を指定した寄付をいただきました。
ハンドくんファンド	52031 円	北の NPO 基金の運営自体を支援していただくために造成された基金です。Yahoo!ネット募金登録中。
合計	893187 円	

3. 北のNPO基金の活動

■北の NPO 基金の専用サイトの運営のほか、北海道災害復興支援基金、いぞう寄付の窓口のサイトを運営しています。月あたりのページビューは北の NPO 基金で 700 あまりです。

SNS は、X が 210 フォロー、フェイスブックは北海道 NPO サポートセンターと共用しておりおよそ 700 いいね、北海道災害復興支援基金としてのツイッターがおよそ 50 フォロー、フェイスブックいいねが 150 ほどです。

昨年から引き続き Yahoo!ネット募金に北海道 NPO ファンドの運営支援をしていただく「ハンド君ファンド」、また、北海道災害復興支援基金を登録しています。

4. 認定 NPO 法人北海道 NPO ファンドとしての活動

2022 年度は、他分野の中間支援との連携が進みました。

1) 北の国災害サポートチームとの連携

また、23 年 9 月の共催フォーラム「これからの災害支援考える北海道フォーラム～地域特性を踏まえた災害支援の構築を目指して」を開催しました。

2) 北海道 NPO サポートセンターとの連携

「小林董信基金の運営」

北海道 NPO サポートセンターと当ファンドでプロジェクトチームをつくり、NPO の発展に多大な貢献をされた故小林氏の功績を後世に伝えるための基金を造成しました。今年は初回助成を行ない、採択者インタビューを公開しました。ホームページ「小林董信アーカイブ」では、助成情報だけでなく氏の足跡を集め公開しています。

3) 休眠預金活用に関わる活動

・休眠預金助成の 2020 年度一般枠資金分配団体として活動しています
コープさっぽろ、北海道 NPO サポートセンターとの連携により、総額 5000 万円程度、北海道内の 3 団体への助成を申請し、日本民間公益活動連携機構に採択されました。2024 年初頭までの事業になります。

<採択された団体>

NPO 法人いきたす

NPO 法人のこたべ

一般社団法人十勝うらほろ樂舎

・休眠預金助成の 2021 年度一般枠資金分配団体として活動しています
コープさっぽろ、北海道 NPO サポートセンターとの連携により、小中学生年代を対象とした体験・機会格差の是正に取り組む事業を実施しています。総額 6000 万円

(ア) 株式会社あしたの寺子屋「地方の子どもの選択格差を解消するモデルの構築～第 3 の居場所と多世代交流プログラムの相乗効果による地域教育エコシステムの構築」事業

(イ) 新冠町商工会「地方情報不足解消、体験プログラムを通じた子ども非認知能力向上～地方人材流出を改める魅力ある地方教育創出とふるさと愛着度向上」事業

(ウ) 一般社団法人かやぶきの家まねきや「かやぶきの家と縄文畑の多世代交流活動事業～「冒険あそび暮らしの地域コミュニティづくり」」事業

・休眠預金助成の 2022 年度一般枠資金分配団体に 6 月に申請、内定しました。
助成総額は 6000 万円程度です。

採択団体

一般社団法人にじいろほっかいどう(函館市):社会的居場所を核とした働き方と暮らし方の共生の実現～地域コミュニティにおける障がいのある LGBTQ の受容を目指して:内定助成額 18476410 円

特定非営利活動法人北海道レインボー・リソースセンター L-Port (札幌市):望まない孤立に陥りやすい LGBTQ 当事者のセーフティネットから、社会参加を望む LGBTQ+ 当事者のサポートまで/主に障がいのある LGBTQ+ を対象としたワンストップ支援の構築:内定助成額 17017541 円

特定非営利活動法人地域生活支援ネットワークサロン(釧路市):カミングアウトから自己表現へ 真の社会参加創造事業/共生社会のアバンギャルドと探求する社会変革:内定助成額 17398905 円

2023 年度の草の根・通常枠に、はまなす財団様と連携して申請しましたが残念ながら採択されませんでした。24 年度以降、形を変えて申請を試みます。

5) 新型コロナウイルス感染症対策活動団体支援協議会-行政と NPO の連携枠組みに参加しています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に対処するため、行政とまちづくり活動団体が連携し、一体となって助成の方向性を協議し、喫緊のニーズを踏まえた支援を迅速に進めることを目的に、2020 年 5 月 20 日に設立。札幌市、札幌市市民活動サポートセンター、札幌チャレンジド、北海道 NPO サポートセンターとともに運営メンバーとして参加。札幌市を対象としたさぽーとほっと基金助成の周知や広報などに加え、23 年 4 月からは伴走支援も実施することになりました。

6) SIMI(社会的インパクトマネジメントイニシアチブ)賛同メンバー、全国コミュニティ財団協会正会員、全国レガシーギフト協会正会員として活動しました。

・SIMI(社会的インパクトマネジメントイニシアチブ)

社会的インパクト評価や組織評価は、助成事業や SDGs との関連で語られることが増えています。現状当会は有料のメンバーシップではなく、賛同メンバーとして関わります。

・全国コミュニティ財団協会

引き続き正会員として加盟しています。地域の資金循環を担う財団のネットワークによる情報交換、連携・協働を目指します。

2022 年度は、休眠預金資金分配団体申請へむけて、あいちコミュニティ財団、長野県みらい基金とコンソーシアムを組んで申請しました。

22 年～3 年にかけて当ファンドが北海道東北ブロックのブロック長となりましたので、ブロック研修企画を予定しています。

・全国レガシーギフト協会

遺贈寄付の相談窓口業務を実施。9月の遺贈寄付ウィークにはコミュニティ財団と一緒に企画参加しました。当ファンドは、2023年9月27日(火)18:30～に「遺贈寄付ウィーク2023～遺贈寄付の相談対応と準備」を連動企画として実施しました。

7) いぞう寄付の相談窓口業務

超高齢化社会を迎え、独り身の方や高齢の方が社会や故郷に有意義に財産を活用してほしいという相談が増えていくことが予想されます。当ファンドでは、全国レガシーギフト協会に加盟し遺贈寄付の相談窓口を開設しています。2022年度の相談は2件ありました。専用サイトを開設し広報をしています。

8) 寄付月間2022のアンバサダーとして活動

欲しい未来に寄付を贈ろうという趣旨で、寄付月間推進委員会により運営されている、全国的なキャンペーンです。共同事務局に参加し、またキャンペーンに参加しました。

9) 日本非営利組織評価センターのグッドガバナンス認証取得へ向けた活動

2023年8月にベーシックガバナンスチェックを更新しましたが、グッドガバナンス認証の取得には至りませんでした。